

第11回大阪圏ライフサイエンス推進協議会
(議事要旨)

日 時:平成23年8月5日(金)
14:00～16:00
場 所:大阪府公館大サロン

1 開会

2 挨拶

内閣官房地域活性化統合事務局次長(以下、座長)より挨拶。
地域活性化統合事務局(以下、事務局)より、協議会の議事について、公開とする旨説明し、了承。

3 委員紹介

4 協議会設置要綱の改正

事務局より、協議会委員の組織変更に伴う変更について説明し、了承。

5 進捗状況に関する報告

(1)関西全体の進捗状況報告(神戸市)

- ・ 関西バイオ推進会議事務局より、基本構想に掲げる16のプロジェクトの進捗状況の報告。
- ・ 基本構想には3つの基本目標がある。①最もポテンシャルの高いメディカルサイエンス関連のプロジェクトを柱に据え、関西経済の再生を目指す。②国民生活の質(QOL)を向上させるため、関西の集積する先端技術を活用し、研究成果の実用化を果たす③戦略的な科学技術振興政策を推進することにより国際的な科学技術の振興への寄与を目指す。
- ・ 各PJの投入国費は平成11～23年度までの累計で3,290億円となっており、これまでの厚い支援に感謝したい。
- ・ 関西バイオ推進会議では各プロジェクトの成長を相互に確認しつつ、オール関西で基本構想の実現に向けて努力してまいるので、国の方からも一段のご支援をお願いしたい。

(2)各プロジェクトの取組報告

①大阪府

- ・ 北大阪バイオクラスターでは、経済産業省の「最先端医療融合イノベーション拠点の整備事業」にて大阪大学に支援をいただいている。また、厚労省の「早期・探索型臨床試験拠点整備事業」にて大阪大学病院と国立循環器病研究センターに支援をいただいている。
- ・ 上記バイオクラスター圏内にはわが国でトップレベルの大学や研究機関が存在している。そのポテンシャルを産業経済の発展や国民生活の向上等に寄与させるべく、平成20年9月、

大阪バイオ・ヘッドクォーターを立ち上げ、大阪府バイオ振興課が事務局を務めている。

- ・ バイオベンチャーを資金面からサポートすべく「大阪バイオファンド」を展開中。現在で 2 件ほど出資案件がある。
- ・ また、これとは別に、平成 22 年度に(財)大阪産業振興機構のファンドを利用して公募方式のファンドも立ち上げた。
- ・ 大学のポスドクや製薬企業のOB等、即戦力の人材をベンチャー企業と結びつけるバイオ人材マッチングを継続して行っている。現在 14 名のマッチングの実績がある。
- ・ 治験の迅速化を目指すため治験ネットワークを構築し、「大阪治験ウェブ」を立ち上げる等の取組みを進めている。
- ・ 平成 21 年、バイオベンチャー等の医療機器分野への参入を促進するため、医療機器相談窓口を設置。また、平成 23 年 8 月には続けて医薬品相談窓口も開設した。
- ・ プロテイン・モール関西は、当初20社程度であった会員企業も現在は76社の企業が参画している。
- ・ 北大阪バイオクラスターのシンボルゾーンは彩都エリア。その中でも中心になるのは彩都ライフサイエンスパークで、ここには 44 の企業や研究機関が進出し、1,300 人が働いている。

②京都府

- ・ 関西学研都市メディカルコンプレックス構想プロジェクトを推進中。学研都市には、現在で 113 の研究機関が進出している。
- ・ 平成 21 年に京都府・京都市等で共同提案を行い、グローバル産学官連携拠点として国に採択された。「低炭素社会」と「健康長寿社会」の実現を目指している。主な取り組みとして、産学官連携のマッチング事業として京都府内 10 大学の大学シーズの研究発表会や、若手研究者の人材育成等を行っている。
- ・ 都市エリア産学官連携促進事業として、ユビキタス生体計測をテーマに京都府、大阪府、奈良県の 3 府県で研究を実施。
- ・ 平成 23 年度、文部科学省から「国際競争力強化地域」に選定され、また、「地域イノベーション戦略支援プログラム」にも採択決定。毎年 1.6 億円の補助を受けながら、無意識生体計測 & 検査によるヘルスケアシステムの研究開発に従事する。
- ・ 同じく、平成 23 年度、経済産業省から、「地域企業立地促進等共同施設整備費補助事業」の採択を受け、植物工場プロジェクトやダチョウ抗体プロジェクトについての研究を進める。

③兵庫県

- ・ 世界最高性能の大型放射光施設SPring-8を核として、光科学技術における世界トップレベルの研究開発とその成果を活かした新産業の創出、ならびに既存産業の活性化が一体的に展開されている知的創造拠点の形成を目指した取り組みを進めている。
- ・ 特に、播磨科学公園都市においては、X線自由電子レーザーの整備が進んでいる。また、ポートアイランド地域では今年 6 月に世界最高の計算速度を達成した「京」コンピュータが、来年 11 月の供用開始に向けて整備が進められている。
- ・ 兵庫県COEプログラム推進事業は、研究の立ち上げ期支援を行うもので、これまで 100

件の採択を行い、うち 29 件がライフサイエンス分野である。

- ・ SPring-8 関連としては、兵庫県ビームラインの設置、兵庫県放射光ナノテク研究所の開設、神戸大学と連携した連携創造本部 応用構造科学産学連携推進センターの設置があげられる。
- ・ X線自由電子レーザーの整備状況としては、平成 23 年 3 月にXFEL施設が完成、愛称も「S ACLA(さくら)」に決定し、本年度中の供用開始に向けて整備が進んでいる。

④奈良県

- ・ けいはんな地域でスタートした知的クラスター創生事業は平成 19 年度末で終了。その研究成果を事業化につなげるべく都市エリア産学官連携促進事業の補助を受けながら研究開発を進めてきた。
- ・ 研究分野としては、「妊婦見守り」「泌尿器」「生活習慣病」。現在は関経連にも参加いただき、引き続き「けいはんなヘルスケアクラスターの構築」を推進している。
- ・ また、健康関連産業の新事業展開プロジェクトを平成 18～22 年度まで進めてきた。現在は本年 3 月に奈良県植物機能活用クラスター協議会を立ち上げ、吉野クズ、大和マナ、大和生薬、大和茶などの地域資源を活用した植物機能に関する研究開発の推進、植物機能活用技術による食農産業の創出を図っている。

⑤滋賀県

- ・ 滋賀県、長浜市、長浜バイオ大学、滋賀バイオ産業推進機構をメンバーとして、「長浜バイオ大学をはじめとする学術研究基盤を核としたバイオ産業創出プロジェクト」を推進。
- ・ 湖北エリアは滋賀県のバイオクラスターの重点地域であり、長浜バイオ大学、長浜インキュベーションセンター、長浜サイエンスパークが中心となっている。
- ・ 長浜サイエンスパーク、長浜インキュベーションセンターともに、全区画全室が満室あるいは操業を開始している状況。
- ・ 昨年度、地域再生計画の認定を受け、「バイオサイエンスによる次世代成長産業の振興」として、農商工連携、健康をキーワードに大小様々な取組みをスタートさせている。
- ・ また、大津、草津エリアを中心に、滋賀大学と立命館大学と共同で医工連携プロジェクトを展開している。

⑥和歌山県

- ・ 「和歌山バイオ戦略」に基づき、県の豊富な農林水産資源に各種バイオテクノロジーを導入し、高品質・耐病性・環境ストレス耐性を有する新品種生産技術の開発や機能性食品素材等新規有用資源の開発に取り組んでいる。
- ・ 個別プロジェクトの内容としては、平成 15 年度から 5 年間実施してきた「地域結集型共同研究事業」がフェーズⅢに入っており、農産物の品種改良や新たな養殖技術の開発に取り組んでいる。
- ・ また、平成 21 年から開始した「地域イノベーション戦略支援プログラム」では機能性の高い食品ならびに素材の開発に取り組んでおり、一例としては、梅干加工時の副産物(梅酢)の有効

活用があげられる。

- ・本年度が本支援プログラムの最終年度であるが、それをさらに進めるため、「地域イノベーション戦略推進地域」の提案を行い、今年8月に「研究機能・産業集積高度化地域」の選定を受けた。

⑦徳島県

- ・「世界レベルの糖尿病研究開発臨床拠点」の形成を目指す「徳島健康・医療クラスター構想」を進めている。徳島大学、徳島文理大学、徳島大学病院などが密接に連携し、糖尿病発症の原因系に焦点を当てた画期的な診断や治療法の開発を目指す。
- ・プロジェクトの主な取り組みとして、糖尿病克服に向けた先進的臨床研究を行っており、糖尿病・メタボリック症候群発症過程とその原因となる生活習慣を解明するコホート研究を行っており、成果としてメタボリック症候群と関連する因子を発見した。
- ・また、糖尿病の診断法及び検査装置の開発を行っており、新規治療法の開発では、製薬会社との間で共同研究を開始している。
- ・平成22年度には、アジア糖尿病フォーラムを開催、平成23年度も8月に2回目を実施予定。中国の湖南省とも友好提携を年内に結ぶ予定。

⑧三重県

- ・欠席の為、報告省略

⑨大阪市

- ・平成25年春、大阪駅の北口にナレッジキャピタルの中核施設として大阪市が中心になり「大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ」を開設予定。
- ・基本方針は、①都市の強みを生かした「知の集積」を形成、②国際的な「知の交流」を創出、③イノベーションにつながる「知の連絡」を創出、の3つ。
- ・ライフサイエンス分野での主な取り組みとしては、「ロボットテクノロジー・医工連携」と「健康科学」。
- ・「ロボットテクノロジー・医工連携」では、医療看護介護分野における潜在ニーズを顕在化させ、それらをICT技術あるいはロボットでいかに克服していくかという試みを行う。
- ・「健康科学」では、大阪市立大学を中心として抗疲労に係る研究が進んできている。ここ一番の売りは、病院での臨床データに加え、未病の方のバイタルデータに個人の環境データをかけあわせてデータを収集・分析し、それに基づいて新たな健康機器、健康食品を開発していくこと。
- ・健康科学は汎用的なスペースを設ける予定なので、他の自治体プロジェクトの方で多くの方のデータを取りたいというニーズがあれば、一緒にコラボレーションできることもあると思うので、是非声かけしてほしい。

⑩京都市

- ・ 京都バイオシティ構想のもと、新たに行った3つの取組み、動きについて説明。
- ・ 「医工薬産学公連携支援事業」については、京都大学先端医療機器開発・臨床研究センターに京都市医工薬産学公連携支援オフィスを移設し、京都地域の医療産業振興のため、京大を中心とする医学・工学・薬学の融合における産学公連携支援活動を実施。
- ・ 「京都発革新的医療技術研究開発助成事業」については、大学研究者および中小・ベンチャー企業を対象に、新たな医療機器や医薬品の開発につながる研究開発に約100万円の助成を行い、新規事業展開のきっかけを提供するもの。
- ・ 「地域産学官共同研究拠点」については、(独)科学技術振興機構の地域産学官共同研究拠点整備事業の採択を受け、高度研究機器を桂イノベーションパークおよび京都リサーチパークに整備し、先端光加工プロジェクトとバイオ計測プロジェクトを実施している。今後は、その機器を活用して共同研究と人材育成を行いたいと思っている。

⑪神戸市

- ・ 神戸医療産業都市の中核施設等整備状況としては、神戸ハイブリッドビジネスセンターが内閣府の補助金を得ながら今年の3月に完成。レンタルラボ、交流スペース、事業所内の託児施設の整備を行った。
- ・ 国際医療開発センターも経産省の補助金を活用し、医療機器の研究開発と人材育成に関する拠点として今年の5月にオープン。
- ・ 救急医療・高度医療・急性期医療を重点的に担う中央市民病院が今年の7月に移転。また、メディカルクラスター(高度専門病院群)の形成として、神戸国際フロンティアメディカルセンター病院が今年4月に開設。神戸低侵襲がん医療センターは平成25年4月に開設予定。
- ・ 次世代スーパーコンピュータ(「京」)を中心としたCOEの形成として、甲南大や兵庫県立大、神戸大が近隣地に進出。

⑫関西経済連合会

- ・ 欠席の為、報告省略

⑬近畿商工会議所連合会(大阪商工会議所)

- ・ 次世代医療システム産業化フォーラム2011を開催。対象分野は医療機器とバイオ機器、ナノバイオなど。医療現場の医療機器に関するニーズ・シーズのマッチングを狙いとしている。
- ・ 構成としては、医療現場等の先生が企業向けに発表行う定例会が年9回あり、また、関心のある企業が手を挙げて行う個別ミーティングがある。関西だけではなく全国の医療機関の先生に出席いただいている。
- ・ 企業マッチング実績(先生が発表して企業がついた案件)としては計366案件にのぼる。事務局のポリシーとして、企業が関心を持たない発表はここでやっていただかないようにしている。ある意味セレクトして発表いただいているので、企業マッチング率は90%を超えている。
- ・ 全国から大手・中小関わらず多くの医療機器メーカーに参加いただいております。特にここ数年では自動車・エレクトロニクス系の企業が数多く参加されている。年間を通して常に新たな企業が本フォーラムに参加してくれている。

(3)国側の報告

- ・ 内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省から、各府省におけるライフサイエンス関連支援施策及び関連予算等について紹介。

6 意見交換など

- ・現在、関西では、関係府県や政令都市で一丸となり、グリーンイノベーションとライフイノベーションを 2 本柱とした関西国際総合特区の申請に向けて準備を進めている。関西にはその両分野の基盤がしっかりあり、それを活かしていきたいと考えているので、皆様のご協力、ご支援をお願いしたい。(大阪府)
- ・事務局より、次回協議会の開催については、次回の幹事である京都市と調整して決定させていただくことを説明。(例年であれば8月上旬)

7 閉会

以上